

〈授業デザイン構想例 11〉



## 高等学校芸術科(美術 I)

### 人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～

#### 教科としての特性

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力の育成。【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編P101】

#### 本教科で育成を目指す資質・能力

美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようにする。
- (2) 美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 主体的に美術に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編 P423～425】

#### 本教科で働かせる見方・考え方

造形的な見方・考え方とは、美術の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編 P102】

#### 視点1

### 各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していく。【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編 P1】

#### 視点2

### 授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p><b>指導の個別化</b></p> <p>生徒の理解度や進捗に応じて、個別サポートを提供する。例えば、材料や配色に悩む生徒には具体的なアドバイスや視覚的手本を提供し、主題や構想がまとまらない生徒には再考の機会を設ける。表現の意図と材料や用具の特性を関連させた指導も行う。</p>	<p><b>学習の個性化</b></p> <p>デジタルツールで生徒の進捗を把握し、必要に応じてフィードバックを行う。また、生徒のニーズやペースに合わせた具体的なアドバイスを提供。材料や配色に悩む生徒には視覚的な手本を提供し、主題や構想がまとまらない生徒には再考の機会を設け、サポートする。</p>	<p><b>協働的な学び</b></p> <p>生徒同士が協力して学びを深めるために、グループワークやピアフィードバックを取り入れる。制作途中で相互鑑賞を行い、他者の作品を見たり意図を説明し合う場を設ける。これにより、生徒は他者の意見を参考にし、自分の作品を向上させる。</p>
--	---	---

#### 視点3

### 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- 1 制作途中作品の相互鑑賞会  
電子黒板やタブレットを用いて、生徒が制作途中の作品を見せ合いフィードバックを行う。
- 2 アイデア共有  
電子黒板やタブレットを利用して、生徒のアイデアを全体で共有し、ディスカッションを行う。
- 3 作品の鑑賞と説明  
タブレットを使用して、制作過程と完成作品をポートフォリオとして説明。  
生徒が自分の作品をタブレット上で説明し、他の学生からのフィードバックを受ける

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にして授業デザイン（単元）を構想するにあたってのポイント

単元を通して「生徒が何を身に付け、どのように学ぶのか」を明確にし、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが大切です。生徒が自分の視点やペースで学習を進めることができるように発想や構想をしたことを基に創造的に表す学習活動の展開を工夫します。生徒のニーズや特性に合わせて多様な学習の場を設定したり、ICTを活用したりする等、主題を追求し造形的な見方や感じ方を深める指導の工夫が大切です。

単元名：人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～					
流れ	単元の流れ	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
導入 1次～2次	1. 作品の鑑賞（2時間） ●美術作品から、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 ・人物像をテーマにした複数の美術作品をグループで鑑賞し、作品から感じ取ったことや主題と表現の関係、意図と工夫について批評する。 ●造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることについて理解する。 ・作品の主題と表現の関係や意図、工夫から、形や色彩、材料、光の性質、感情への効果、造形的特徴を基に全体のイメージや作風を理解する。	教科書 QR 	ワークシート 	鑑賞 	電子黒板 
		ワークシート 	ワークシート 	鑑賞 	タブレット
展開 ① 3次～6次	2. 発想や構想（4時間） ●主題を生成する。 ・表現したい対象を見つめ、その人物像について考察し、感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成する。 ●主題を基に構想を練る。 ・生成した主題を基に、表現形式の特性、表情やポーズ、配色や構図を考え、ワークシートやアイデアスケッチで創造的な表現を構想する。	ワークシート 	タブレット 	中間発表 	タブレット 
		ワークシート 		中間鑑賞 	電子黒板
展開 ② 7次～14次	3. 制作（8時間） ●発想や構想をしたことを基に創造的に表す。 ・発想や構想に応じて材料や用具の特性を生かし、創意工夫して主題を創造的に表現する。また、制作途中に相互鑑賞を行い、他者の意見を参考にしながら作品を完成させる。	下絵 	彩色 	中間鑑賞 	電子黒板 
			ポートフォ 		コメント 
終末 15次～16次	4. 鑑賞（2時間） ●生徒作品や美術作品などを鑑賞し、見方や感じ方を深める。 ・お互いの完成した作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを根拠に批評し合う。 ・第一次とは異なる作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を考察して見方や感じ方を深める。	自己評価 		鑑賞 	電子黒板 タブレット 

※ピクトグラムの活用は、生徒や学校の実態に応じて取捨選択する。

文部科学省 2021 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校芸術(美術)】P52